

第4節 小串構内(山口大学医学部構内遺跡)の調査



図 65 調査区位置図



写真 192 調査地点遠景 (北上空から)

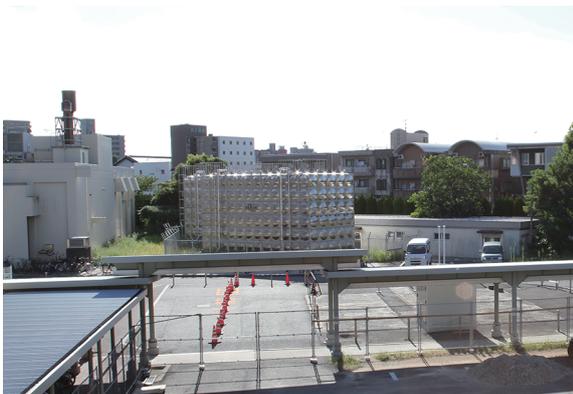


写真 193 調査地点近景 (東から)

1. 基幹・環境整備及び診療棟・病棟新営工事(自家発電設備工事)に伴う立会調査

調査地区 小串構内新病棟建設地西側空地

調査面積 100m²

調査期間 平成29年1月17～20日

調査担当 横山成己

調査結果

(1) 調査の経緯と経過(図65、写真192・193)

当工事計画に関しては、平成26年度に建物予定地北端部において予備発掘調査を実施した。調査においては、現地表下約3mにて検出される、貝の堆積する灰色海成砂礫層にて縄文土器や石錘などを確認したが、その分布が希薄であったため、予定地全域での本発掘調査は不必要であること、関連設備工事等で掘削深度が遺物包含層に及ぶ際には工事中に立会調査を実施することなどが平成26年度第2回埋蔵文化財資料館専門委員会(平成26年10月3日開催)にて承認された。

平成28年度に至り、関連する基幹・環境整備工事に新たに自家発電設備工事を追加するとの連絡を受け、11月10日(木)に本学開発部局と協議をおこない、当該工事では約10m四方の範囲を現地表下4.45mまで掘削する必要があることを確認した。

開発予定地の北に隣接する地点にて平成16年度に実施した調査においても、汽水域の貝が堆積する灰色海成砂礫層から縄文土器や土師器、石錘などが出土している(図66、写真194)ことから、発掘調査を要する事案であることは明白であったが、すでに工程が決定していること、さらにすでに診療棟・病棟新営本体工事が遅延していることから、やむなく工事立会にて対応することになった。

調査においては、地表下約3mに埋存する暗青灰色(10BG4/1)海成砂層の直上(+15～20cm)まで開発工業者が機械掘削を行い、作業員5名と共に2日間で人力掘削を行い、遺物の分布状況を確認

認することとなった調査の経過は以下の通りである。

1月17日(火)・18日(水)重機掘削

1月19日(木)・20日(金)人力掘削・写真撮影

なお、1月20日(金)の天候は風雪であり、かつ湧水等により土層断面が脆弱であったため、矢板が設けられていない調査区東壁に対しては、安全面への配慮から断面精査と分層のみを行い、断面図作成は断念し、記録写真を撮影するにとどめている(写真195)。

(2)調査の結果(図67、写真195～198、表14・15)

調査区東壁の基本層序(写真195)に関しては、表土および造成土(1・2層)の大半が除去された状態であったが、平成16年度調査区の東壁(写真194)とほぼ同一であり、3. 褐灰色(10YR4/1)粘土…旧耕土(層厚10～15cm)、4. 褐灰色(10YR5/1)粘土…旧床土(層厚約40cm)、5. 黄褐色(2.5YR5/3)粗砂に黄灰色(2.5YR5/1)粘土が混ざる…河川堆積土(層厚40～60cm)、6. 暗青灰色(10BG4/1)海成砂…汽水域の貝を多量に含む海底堆積(層厚20cm以上)である。

現地表下約3m(標高0m)地点で、汽水域の貝類が堆積する6. 暗青灰色(10BG4/1)海成砂層を検出した(写真196・197)。湧水と降雨・降雪が激しかったため、ヘドロ状の土から遺物を探す状態であったが、弥生時代前期の甕および石錘を確認することができ(図67、写真198、表14・15)、平成16・26年度の調査成果を追認することとなった。

これらの遺物の由来は、小串構内の北から北西に位置する丘陵上に形成された集落跡と推定されるが、現在は削平され住宅が建ち並んでおり、遺跡の痕跡をとどめていない。換言すると、丘陵直下の旧海底に堆積した、または投棄された遺物のみが当地の歴史的環境を復元する手掛かりとなる。

今回は十分な調査期間が得られず、限定的な調査となってしまったが、遺物の分布範囲を確認するため、小串構内北部では今後とも慎重な埋蔵文化財保護対応を行う必要がある。

【註】

- 1) 横山成己(2019)「基幹・環境整備及び診療棟・病棟新営工事に伴う予備発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成26年度－』, 山口
- 2) 横山成己(2006)「医学部基幹整備(地下オイルタンク他)工事に伴う試掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成16年度－』, 山口

小串構内(山口大学医学部構内遺跡)の調査

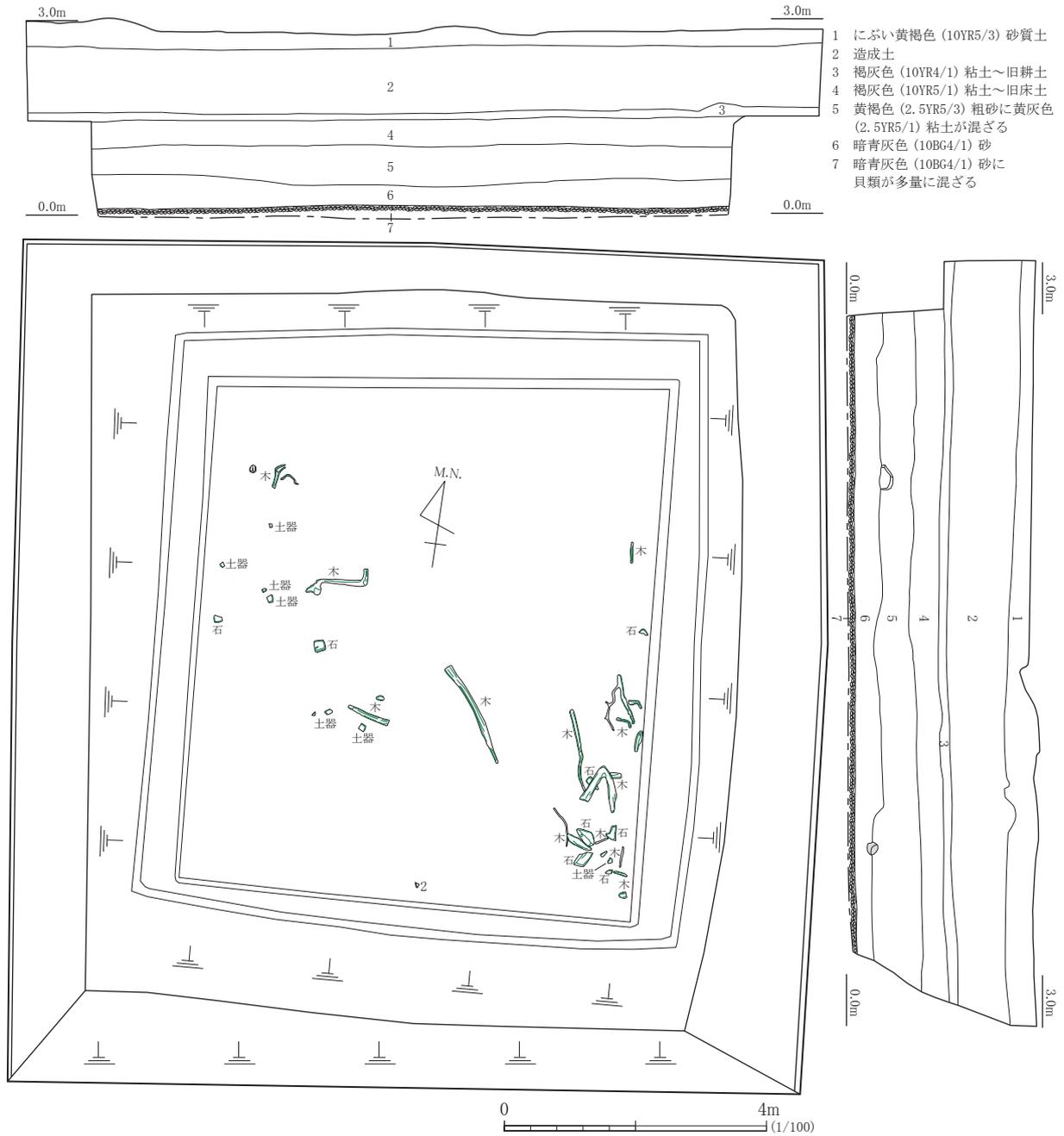


図 66 平成 16 年度調査区平面図・断面図



写真 194 平成 16 年度調査区東壁土層断面 (西から)



写真 195 平成 28 年度調査区東壁土層断面 (西から)



写真 196 貝堆積層検出途中 (北西から)



写真 197 貝堆積層検出状況 (南西から)

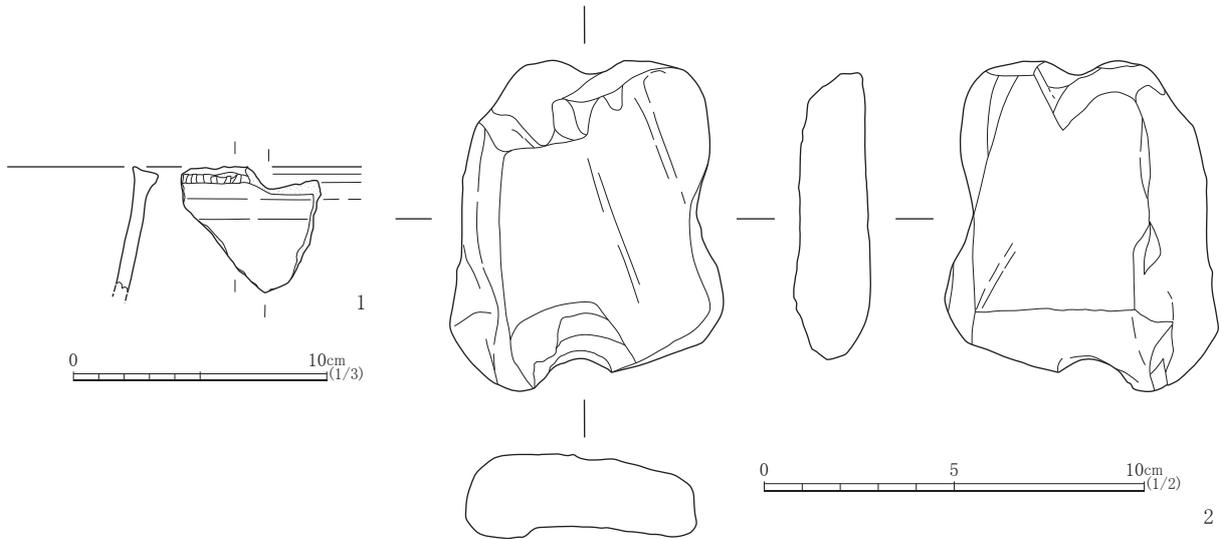


図 67 出土遺物実測図



写真 198 出土遺物 (土器・石器)

表 14 出土遺物 (土器) 観察表

法量()は復元値

遺物 番号	遺構・ 層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調		胎土	備考
					①外面	②内面		
1	7層上面	弥生土器 甕	口縁部	③残高5.0	①灰オリーブ色(5Y4/1) ～黄色(5Y7/6)	②灰オリーブ色(5Y5/3)	0.5～2mm φ の長石・石英 含む	

表 15 出土遺物 (石器) 観察表

法量()は残存値

遺物 番号	遺構・ 層位	器種	法量(cm)				石材	備考
			①長さ	②幅	③厚	④重量(g)		
2	7層上面	石錘	①8.8	②7.15	③2.2	④208.75	珪長岩	